

# 天井彩るしまなみブルー

今治・伯方の集会所 児童・園児 作品描く

今治市伯方町北浦の「しまなみブルー」に、子どもたちの絵を組み合わせたアートが一目見えた。「しまなみブルー」をテーマにしたアートが一目見えた。



思い思いの絵を感性豊かに描く子どもたち  
(田窪さん提供)

マに海や青空などを豊かな感性で描いた作品が、約21日にわたって廊下の天井を彩っている。



同市伯方島で活動するNPO法人「創作クラブGrian」が企画。鎮守の柱には2019年に地元の子どもらが手がけた天井画を飾っている。

今回は第2弾として、活動した元市地域おこし協力隊の有吉かな子さん(27)＝京都市立芸術大卒＝も協力。海を泳ぎ回る魚や満天の星、来島海峡大橋などに参加。縦45枚、横91枚の木製パネルに水性ペンキでイラストを描いた。出来上がった計141枚を、天井に組み合わせて展示した。

Grianの田窪良子代表(49)によると、制作には、伯方島で

子どもたちが描いた絵を廊下の天井一面に並べたアート作品

障害のある子や、親が外国人で日本語をあまり話せない児童らも制作に参加した。当初はなじめない様子だったが、作品作りを通じて徐々に心を開いてくれたという。

田窪さんは「子どもたちが鎮守の柱に新しい魅力をつくってくれた。首を上に向けてたり寝転んだりして廊下のアートを楽しんで」と呼びかけている。

23日に参加者や地域住民を招き、お披露目を開く予定。

(石田一真)